

サッカー競技における B 大学と J1 チームの失点シーンに関する比較研究

宮 大樹 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 秋武 寛

キーワード：サッカー，失点シーン，ゲーム分析

1. 緒言

サッカーは、攻撃と守備を一体化し、プレーヤーが味方と協力しゴールを守るというサッカーの根源的な目的に基づいて、状況を判断しプレーすることがより重要となっている(須田, 2016). 近年, VTR やコンピュータを駆使したゲーム分析が, あらゆる角度から行われるようになってきている(藤岩, 2014). 本研究では, サッカー競技における B 大学サッカーチームおよび J1 チームを対象に失点シーンを分析し, 比較検討することを目的とした.

2. 研究方法

1) 研究対象の試合

2017 年関西学生サッカーリーグ 1 部に所属する B 大学のリーグ戦 22 試合の内, 無失点試合以外の 16 試合の失点した試合とある J1 チームの 2016 年明治安田生命 J1 リーグ戦 16 試合の失点シーンの分析を行った.

2) ゲーム分析

関西学生サッカーリーグ戦の試合は, 全て UNIV-SPORTS.TV の映像, 2016 年明治安田生命 J1 リーグ試合は, 公式映像をパーソナルコンピュータで再生し, 分析した.

3) 分析項目

分析項目は, 日本サッカー協会技術委員会(2006)が発行した「JFA テクニカルレポート」に示された得点シーンの分析項目を参考に, ①失点の内訳(オープンプレー, セットピース), ②失点に至る相手チームの攻撃開始位置, ③失点に至る相手チームの攻撃時間, ④失点に至る経過パス数, ⑤失点に至るシュート時のタッチ数, ⑥失点に至るシュートが打たれた地

点, ⑦失点の時間帯の 7 項目の分析を行った.

3. 結果と考察

1) 失点に至る相手チームの攻撃時間

相手チームの攻撃時間が短ければ短いほど, 失点している割合は高くなっている.

2) 失点に至る経過パス数

J1 チームは B 大学と比較すると, パス数が増えても失点している. パス数が増えても失点が増えるのは, J1 チームの方が個人のサッカースキルが上がって, パスの精度が上がってパスミスが減るからだと考えられる.

3) パス数と攻撃時間の相関関係

B 大学のパス数と攻撃時間の関係には, 正の相関関係が認められた ($r=0.802$ $p<0.05$). J1 チームのパス数と攻撃時間の関係には, 正の相関関係が認められた ($r=0.704$ $p<0.05$).

4. 結論

B 大学のサッカー部の失点シーンは, J1 チームと比較することにより, 失点の内訳, 失点に至る相手チームの攻撃開始位置, 失点に至る相手チームの攻撃開始時間, 失点に至る経過パス数, 失点に至るシュート時のタッチ数, 失点に至るシュートが打たれた地点, 失点の時間帯が明らかとなった.

引用・参考文献

藤岩 秀樹(2006) サッカーゲームにおける失点シーンの特徴. 宇部工業高等専門学校研究報告. 52, 83-88.

JFA テクニカルレポート (2006) 2006 FIFA World Cup Germany. 日本サッカー協会.10-12.